

レジアンダー 施工のポイント

2024年8月 ver.

アサヒボンド工業株式会社

調合について	<ul style="list-style-type: none"> ・混和液を混合してから粉体を徐々に加えて下さい。 ・粘度調整する場合は粉体の量を減らして下さい。 ・粉体を減らしても施工は可能ですが、粉体の増量・水の添加は性能の低下につながります。(※4 ページ下段参照)
ローラー刷毛について	<ul style="list-style-type: none"> ・防水材撤去後の状態や、防水材・タイル・金属等塗布対象物が吸水の少ない場合はローラー刷毛が使用できます。無垢のコンクリート・モルタルのように吸水の大きい下地にローラー刷毛を使用すると、液体だけが下地に吸われ粉体がローラー内に残ってしまい使用できません。 ・ローラー刷毛推奨品 重防ローラー（大塚刷毛製造製）繊維断面が円形で凹凸がないため、粉体のはき出しが良い。
施工上の注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・下地は十分な清掃を行って下さい。 ・レジアンダー通常粉体は調合がシゴキ用のため、厚付けができません。厚付けをした場合、ひび割れが発生する恐れがあります。 ・水勾配の調整や厚付けをしたい場合は、別途レジアンダー不陸調整粉体、またはレジアンダー厚付速硬化粉体をお使い下さい。また、その他の方法として、レジアンダーを塗布し、指触乾燥後厚付け可能な既調合ポリマーセメントモルタルで成形する方法もあります。ただし溶剤系の材料を上塗りする場合はリフティングに注意して下さい。 ・残存する下地が溶剤に弱い材質の場合、溶剤系プライマーの使用は厳禁です。レジアンダーは溶剤に強いが溶剤は透過します。溶剤系プライマーを使用すると下地の溶解で剥離する危険性があります。
養生について	<ul style="list-style-type: none"> ・下地が乾燥した状態で薄塗りした場合は、短時間で乾燥しますが、下地に吸水性がない場合や厚く塗った場合は乾燥が遅くなります。気温・風速・日射等自然環境により乾燥時間は異なります。 ・下地が高湿潤状態でも確実に接着しますが、乾燥までに長い時間がかかる場合があります。
対応できない下地	<ul style="list-style-type: none"> ・フッ素系トップコート、塩ビシート、ゴム（EPDM）シート、油面等には、使用できません。 ・既存のアスファルトが残存し、新規防水がトーチ工法の場合。レジアンダーをトーチであればと、下のアスファルトからガスが発生し、レジアンダーが部分的に剥離してしまいます。 ・ウレタン系塗り床材・防水材・塗料・接着剤は接着良好ですが、ウレタン系シーリング材は若干付着力が落ちます。 ・ゴム（EPDM）シートやシルバートップは「ゴムエースP」をお使い下さい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・この他にも具体的な製品についての知見もあります。 ・ご不明な点がございましたら当社までご連絡下さい。 ・データのないものでも、被着体をご提供いただければ、当社は積極的に接着試験を行います。

ウレタン防水の下地調整

- ・レジアンダー塗布後、当日ノンプライマーでウレタン防水材が塗布できます。
- ・養生時間 表面全体が乾燥（色で確認、または指触乾燥）した状態となるまで

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6～0.8/回 粗面は状態による	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
アスファルト 防水層撤去後	残存するアスファ ルトとの仲介接着	通常配合	コテ	0.6～0.8	密着していないアスファルトは残さないよう撤去し、残存アスファルトを溶かす恐れがあるので、ノンプライマーで施工して下さい。アスファルト類に対し優れた付着性を有します。
砂付きルーフ ィング(シルバ ートップも可)	砂付きルーフィン グ・シルバートッ プとの仲介接着	混和液：粉体＝1：1	刷毛 ・ローラー	0.12～0.15	砂付きルーフィング、シルバートップに対し接着します。混和液 8kg に対し、粉体を 8kg の 1:1 配合になるように調整して下さい。
ゴムシート防 水層撤去後	ゴムシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は混和液：粉体＝1:1 配合）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.12～0.15	クロロプレンゴム系接着剤に対し優れた付着性を有します。
塩ビシート防 水層撤去後	塩ビシート用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は混和液：粉体＝1:1 配合）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.12～0.15	エポキシ系接着剤に対し優れた付着性を有します。
ウレタン防水 層撤去後（通気 緩衝工法）	通気マット用接着 剤との仲介接着	通常配合（刷毛・ローラーの場 合は混和液：粉体＝1:1 配合）	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.12～0.15	ネオプレン系・ウレタン系接着剤に対し優れた付着性を有します。
ウレタン防水 層	ウレタン防水層と の仲介接着	混和液：粉体＝1：1	刷毛・ロー ラー	0.12～0.15	ウレタン防水材及びトップコートに対し優れた付着性を有します。

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
ポリマーセメント系防水材	溶剤による防水層の軟化防止及び仲介接着	混和液：粉体＝1：1	刷毛 ローラー	0.12～0.15	レジアンダー混和液は耐溶剤性に優れ、下地への溶剤透過も軽減するので既存下地の溶剤による軟化を抑えます。ウレタンプライマーの使用は厳禁です。ポリマーセメント系防水材及びトップコートに対し優れた付着性を有します。
FRP防水材	FRP 防水材との仲介接着	プライマーとして 混和液：粉体＝1：1	刷毛 ローラー	1：1 配合 約 0.12～0.15	接着力確保のため FRP 表面のパラフィンサンディングにより除去して下さい。FRP 防水材に対し優れた付着性を有します。
磁気質タイル	下地との仲介接着	下地調整含む場合＝通常配合 プライマーとして使用＝混和液：粉体＝1:1	コテ・刷毛 ・ローラー	通常配合 0.6～0.8 1:1 配合 0.12～0.15	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
ガラス					
鉄					
ステンレス					
その他 注意事項(※)	レジアンダーの希釈	混和液 8kg に対しての粉体量 粉体量最大 20kg 最低 8kg			レジアンダーに水を加えるのは厳禁です！ 水を加えると性能(接着力)が落ちるので、どうしても塗り伸ばし性が欲しい場合は粉体を減らして下さい。 粉体を減らすと施工性は向上しますが、下地調整能力は下降していきます。ご理解の上調整して下さい。

超速硬化ウレタンの下地調整

- ・ 通常配合で下地調整後混和液を上塗りすると、超速硬化ウレタン施工時にピンホールの発生を軽減します。
- ・ 新たにプライマーを塗布する必要はありません。
- ・ 養生時間 下塗り乾燥後上塗りし、上塗りが乾燥してから約2時間

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復 超速硬化ウレタンのピンホール発生を軽減	下塗り 通常配合 2回塗り 上塗り 混和液のみ	下塗り コテ 上塗り 刷毛 ローラー	下塗り 平滑面 0.6~0.8/回 粗面は状態による 上塗り 0.1~0.15	ピンホールの修復は下塗り(コテしごき)2回が必要です。 上塗りとしてレジアンダー混和液1回塗布。
アスファルト 防水層撤去後	残存するアスファルトとの仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生を軽減	下塗り 通常配合 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	下塗り 平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による 上塗り 0.1~0.15	密着していないアスファルトは残さないよう撤去し、残存アスファルトを溶かす恐れがあるので、ノンプライマーで施工して下さい。アスファルト類に対し優れた付着性を有します。
ゴムシート防 水層撤去後	ゴムシート用接着剤との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生を軽減	下塗り 通常配合 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	下塗り 平滑面 0.8~1.0 粗面は状態による 上塗り 0.1~0.15	クロロプレンゴム系接着剤に対し優れた付着性を有します。
塩ビシート防 水 層撤去後	塩ビシート用接着剤との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生を軽減	下塗り 通常配合 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	下塗り 平滑面 0.8~1.0 粗面は状態による 上塗り 0.1~0.15	エポキシ系接着剤に対し優れた付着性を有します。

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
ウレタン防水層撤去後(通気緩衝工法)	通気マット用接着剤との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生を軽減	下塗り 通常配合 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	下塗り 平滑面 0.8~1.0 粗面は状態による 上塗り 0.1~0.15	ネオプレン系・ウレタン系接着剤に対し優れた付着性を有します。
ポリマーセメント系防水材料	溶剤による防水層の軟化防止及び仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生を軽減	下塗り 混和液：粉体=1:1 上塗り 混和液のみ	刷毛・ローラー	0.1~0.15	レジアンダー混和液は耐溶剤性に優れ、下地への溶剤透過も軽減するので既存下地の溶剤による軟化を抑えます。ウレタンプライマーの使用は厳禁です。ポリマーセメント系防水材料及びトップコートに対し優れた付着性を有します。
磁気質タイル	下地との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	下塗り 下地調整含む通常配合 上塗り 混和液のみ	コテ・刷毛 ・ローラー	下塗り 通常配合 0.6~0.8 上塗り 0.1~0.15	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
ガラス 鉄 ステンレス	下地との仲介接着 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止 超速硬化ウレタンのピンホール発生抑止	下塗り 下地調整含む通常配合 上塗り 混和液のみ 上塗り 混和液のみ2回塗り	コテ・刷毛 ・ローラー 刷毛・ローラー	下塗り 通常配合 0.6~0.8 1 : 1 配合 0.12~0.15 上塗り 0.1~0.15 0.03~0.05 2回塗り	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。 アルミに対し接着良好です。アルミとセメントが直接接触すると、反応により水素ガスが発生します。1 : 1 配合で、アルミとセメントとの反応による接着不良の報告はありませんが、混和液のみの方が安全です。

FRP防水の下地調整

- ・レジアンダー塗布後当日プライマーが塗布でき、連続してFRP防水まで施工できます。
- ・レジアンダーは耐溶剤性に優れているので、短時間の養生でもリフティングを起こしません
- ・FRP防水材の専用プライマーは必ず塗布して下さい。プライマーを塗布せず直接FRP防水材を施工すると、レジアンダー表面の未反応アミンにより硬化不良や接着不良を起こします。
- ・養生時間 表面全体が乾燥してから約1時間後

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
磁気質タイル ガラス 鉄 ステンレス	下地との仲介接着	下地調整含む場合=通常配合 プライマーとして使用 =混和液：粉体=1:1	コテ・刷毛 ・ローラー	通常配合=0.6~0.8 1:1 配合 =0.12~0.15	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
その他					お問合せ下さい

各種シート防水の下地調整

- ・ レジアンダー塗布後当日プライマーが塗布でき、連続してシート防水まで施工できます。
- ・ レジアンダーは耐溶剤性に優れているので、短時間の養生でもプライマー・接着剤の溶剤によるリフティングを起こしません
- ・ 養生時間 表面全体が乾燥してから約 1 時間後

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6~0.8/回 粗面は状態による	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
ゴムシート防 水層撤去後	ゴムシート用接着 剤との仲介接着	通常配合 (刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量)	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8/回 粗面は状態による	クロロプレンゴム系接着剤に対し優れた付着性を有しま す。
塩ビシート防 水層撤去後	塩ビシート用接着 剤との仲介接着	通常配合 (刷毛・ローラーの場 合は粉体を2~3割程度減量)	コテ・刷毛 ・ローラー	平滑面 0.6~0.8 粗面は状態による	NBR系・エポキシ系接着剤に対し優れた付着性を有しま す。
磁気質タイル ガラス 鉄 ステンレス	下地との仲介接着	下地調整含む 通常配合 (刷毛・ ローラーの場合は粉体を2~3 割程度減量)、 プライマーとして 混和液：粉体=1：1	コテ・刷毛 ・ローラー	通常配合 0.6~0.8 1：1 配合 0.12~0.15	左記下地に対し目荒らしを行わなくても優れた付着性を 有します。付着を妨げる汚れ等は充分除去して下さい。
その他					お問合せ下さい

塗り床材の下地調整

- ・レジアンダー塗布後当日、ノンプライマーで塗り床材が塗布できます。
- ・フォークリフト・台車等の通路に通常配合を使用する場合は、プライマーを上塗りして下さい。
- ・養生時間 表面全体が乾燥してからエポキシ系は約1時間後、ウレタン系は約2時間

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
コンクリート モルタル	ピンホールの修復 ひび割れの修復	通常配合	コテ	平滑面 0.6~0.8/回 粗面は別途	ピンホールの修復は2回塗りが必要です。
エポキシ系塗 り床材	エポキシ系塗り床 材との仲介接着	下地調整含む場合=通常配合 プライマーとして使用 =混和液：粉体=1:1	コテ・刷毛 ・ローラー	通常配合=0.6~0.8 1:1 配合 =0.12~0.15	旧塗膜がはく離している部分は通常配合でコテ仕上げ、その他は混和液：粉体=1：1配合で刷毛・ローラーにより施工して下さい。
ウレタン系塗 り床材	ウレタン系塗り床 材との仲介接着	下地調整含む場合=通常配合 プライマーとして使用 =混和液：粉体=1:1	コテ・刷毛 ・ローラー	通常配合=0.6~0.8 1:1 配合 =0.12~0.15	旧塗膜がはく離している部分は通常配合でコテ仕上げ、その他は混和液：粉体=1：1配合で刷毛・ローラーにより施工して下さい。

下地調整を兼ねた仮防水

通常配合で塗布乾燥後、混和液を塗布し含浸させると、極めて透水性の低い塗膜が形成されます。

★ 1 : 1 配合で施工した場合は、仮防水対応はできません。通常配合または不陸調整粉体・厚付速硬化粉体施工時限定となります★

下地の種類	施工の目的	調 合	塗布方法	塗布量目安(kg/m ²)	備 考
適用条件＝下地の挙動が無い事 (FRP/アスファルト/等 は対応不可)	下地調整プラス仮 防水	下塗り 通常配合 上塗り 混和液のみ塗布	下塗り コテ 上塗り 刷毛・ローラー	下塗り 通常配合 0.6～0.8 上塗り 混和液約 0.1～0.15	下塗りは通常配合でコテしごきを原則とします。表面全体が乾燥したら、レジアンダー混和液を上塗りします。混和液が乾けば即仮防水効果が期待できます。 硬質塗膜なのでひび割れの動きには追随しません。貫通ひび割れにはUカットシールを行ってから施工して下さい。 また、下地の挙動への追従性を持たないので、下地がFRP防水材、アスファルト系素材、ウレタン防水材など、挙動が想定される場合は仮防水対応はできません。